

目次 CONTENTS

- 2 今月の話題「いいたてオリンピック」
- 4 特集「担い手の手から手へ」
- 10 ほけんとふくし「長寿番付」
- 11 ほけんとふくし「コロナワクチン」
- 12 飯館百景「過ぎゆく夏の日」
- 14 生涯学習課から「飯館の種火」
- 15 学びの広場「上智大学との交流」ほか
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 はなれていても／ふれ愛館だより
- 20 おしらせのページ
- 21 入札結果
- 22 いいたてDIARY／まていの食卓
- 23 ふるさと資源／ひとのうごき
- 24 ほっとNEWS／飯館言葉の達人

村の夏を彩る「いいたてオリンピック」

村民の皆さんが思いをこめて大輪の花を咲かせました

庭に畑に店先に
たくさん咲いたよ！

この夏、村内のさまざまな場所
所で、この大輪の赤い花が咲き
ました。青い空に映える鮮やか
な色と、迫力のある大きさ。1
つの花が咲くのは1日限りです
が、毎日次々と新しいつぼみが
開いていきます。

この花の名前は、『いいたてオ
リンピア』。村専用の品種とし
て開発され、販売には開発元の
許可を要します。苗は毎年5
月下旬に、『いいたて村の道の駅
までい館』の直売所で販売され

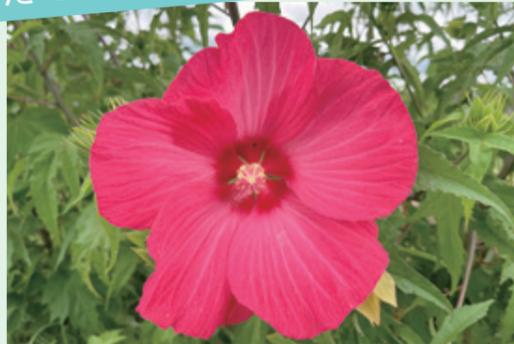
ています。

村のイベントなどで苗を配布
したこともあつて、多くの家庭
で栽培されているようです。玄
関先に大きな鉢を置いたり、生
け垣のように植えたり、花壇を
つくったりと、民家や商店、畑な
ど、多くの場所で『いいたてオリ
ンピア』が咲きました。中には「
一般的なタイタンピカスや白い花
も見受けられ、そのバリエーショ
ンが一層にぎやかに、村の夏を
彩っていました。



英工務店（白石）前の花壇にも大きく育った
「いいたてオリンピック」が見事に咲きました。
『いいたてオリンピックの会』の会員にもなっ
ている同工務店の高橋ミヨ子さん（上飯種）が中
心となり、従業員と共に3年がかりで手入れを
してきました。「オリンピックに合わせてきれ
いに咲かせようと育ててきました」。（写真は
8月5日撮影）

いいたてオリンピック



タイタンピカスの新品種で、鮮やかな赤色の花を次々と
咲かせます。『いいたて村の道の駅までい館』の運営に
協力する園芸企業『赤塚植物園』（本社・三重県津市）
が、飯館村専用品種として開発し、村内でも平成30年
から栽培されています。『いいたてオリンピック』という名
前は、東京2020オリンピック・パラリンピックに合わせて
村を彩ってほしいと名付けられたものです。



行き交う人に楽しんでもらおうと、遊休地や道
路沿いの花壇に植えている地域もあります。
（写真は小宮地区・県道沿いの花壇）



交流センター「ふれ愛館」の花壇にも、大きく
育った『いいたてオリンピック』が大輪の花を咲
かせて、訪れる人を歓迎していました。



今月の表紙

『まていの里のこども園』の子
ども達が虫捕り網を持って園の
周りを探検していました。並木
の間でアリ達の行き先を追いか
けたり、セミの鳴き声に耳を澄
ませたり、身近な自然を相手に
夏の日を楽しんでいました。表
紙の写真は、アブラゼミを網で
捕まえた園児がそっと手に取り
目を輝かせていたシーンです。